

令和6年能登半島地震 災害対策ニュース

鳳至小学校の現場がスタート

全国各地から多くの仲間が就労



次々と資材が運び込まれる鳳至(ふげし)小学校現場

被災から3ヶ月が経過した4月1日、3カ所目の現場である鳳至小学校（107戸）の大工工事がスタート。東は山形県連、西は建労岡山と、全国各地から集まった約40人が就労しました。

当日の気温は14度。さわやかな空気で晴天の中、大工工事が始まりました。初日は、コンクリート基礎の上に木材を設置する土台敷き、コンパネを貼る作業を実施。現場監督の指示のもと、就労者した仲間と力を合わせ、順調に作業を進めていきました。

鳳至小学校は被災者の避難先となっていることもあり、その体育館では避難生活を送っています。歯磨きをするために外に出てきている被災者の方とお話をすると、「ようやく仮設住宅の建設が始まった。待ち遠しい」と話していました。

就労者も、そうした被災者の姿をみながら懸命に取り組むこととなり、大きくやる気に満ち溢れた姿がうかがえました。

○従事者「待っている人のために協力したい」

「通いは長時間で大変だが、一刻も早く待っている人のために協力したい」と話すのは、新潟ユニオンの仲間、桃井只男さん(71)と古川欣也(45)さん。



「仲間と頑張る」と桃井さん(右)と古川さん(左)

桃井さんは、新潟県新潟市内のご自宅から7時間半かけて来ました。「同じ現場で就労している新潟ユニオンや富山県連の仲間とともに頑張りたい」と話しました。

古川さんは、仮設現場へ従事することをきっかけに、新潟ユニオンへ加入。地震発生時は自宅におり、強い揺れを経験しました。「揺れている時は、新潟中越地震が頭をよぎった。緊急時はお互いさま。石川のために少しでも協力できれば」と話し、最後に「新潟はお米がおいしいので、ぜひみんなに食べに来てほしい」とじっくり話しました。